

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成31年2月14日

【四半期会計期間】 第41期第3四半期(自平成30年10月1日至平成30年12月31日)

【会社名】 日本プリメックス株式会社

【英訳名】 NIPPON PRIMEX INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 中川善司

【本店の所在の場所】 東京都大田区鵜の木一丁目5番12号

【電話番号】 03(3750)1234

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 真岡厚史

【最寄りの連絡場所】 東京都大田区鵜の木一丁目5番12号

【電話番号】 03(3750)1234

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 真岡厚史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日
売上高 (千円)	3,952,596	4,305,186	5,445,840
経常利益 (千円)	417,500	497,144	406,809
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	280,259	324,782	322,586
四半期包括利益又は 包括利益 (千円)	314,713	259,415	294,797
純資産額 (千円)	5,500,862	5,635,743	5,480,945
総資産額 (千円)	7,463,014	7,761,793	7,692,589
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	53.25	61.71	61.30
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	73.7	72.6	71.3

回次	第40期 第3四半期 連結会計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日	自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	21.7	18.6

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当社グループが判断したものであります。なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

#### (1) 業績の状況

##### 売上高

当第3四半期連結累計期間における国内経済は、企業部門は底堅く推移するとともに家計部門は穏やかな回復基調となりました。海外においては、米国では主として減税による企業業績の向上や個人の実質所得の増加を背景として個人消費は堅調に推移し、ユーロ圏経済は政治的混迷が続く中、主要国の鉱工業生産や小売売上については直近5年間では僅かな回復基調を示しており、消費は前年比で上昇しております。一方、中国では長年続いた高度成長にかげりが見られ米国との関税問題などの将来的不安から、消費全体は減少傾向となっているものの賃金水準は上昇傾向にあり、社会消費財の小売売上総額は依然として前年比で増加しております。

このような経済状況の中、当社の主力製品であるミニプリンタにつきましては、小売業の年末商戦に向けた無人P S レジ関連商品の需要増や一部の金融機関向け製品の受注増、海外向け製品の受注回復により売上高は、43億5百万円と、前年同四半期と比べ3億52百万円(8.9%)の増加となりました。

なお、商品群別業績は次のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間における商品群別売上高は、ミニプリンタメカニズムは1億42百万円(前年同四半期と比べ3百万円(2.1%)の減少)、ケース入りミニプリンタは26億71百万円(前年同四半期と比べ3億25百万円(13.9%)の増加)、ミニプリンタ関連商品は5億44百万円(前年同四半期と比べ1百万円(0.2%)の減少)、消耗品は3億57百万円(前年同四半期と比べ29百万円(8.9%)の増加)、大型プリンタは76百万円(前年同四半期と比べ8百万円(10.3%)の減少)、その他は5億11百万円(前年同四半期と比べ11百万円(2.2%)の増加)となりました。

##### 売上総利益

当第3四半期連結累計期間の売上総利益は12億3百万円となり、前年同四半期と比べ36百万円(3.1%)の増加となりました。

##### 販売費及び一般管理費

当第3四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は、8億35百万円と前年同四半期と比べ18百万円(2.2%)の増加となりました。

##### 営業利益

当第3四半期連結累計期間における営業利益は3億68百万円となり、前年同四半期と比べ18百万円(5.3%)の増加となりました。

##### 経常利益

当第3四半期連結累計期間における経常利益は4億97百万円となり、前年同四半期と比べ79百万円(19.1%)の増加となりました。

##### 親会社株主に帰属する四半期純利益

税金等調整前四半期純利益は4億98百万円となり、前年同四半期と比べ、80百万円(19.4%)の増加、税効果会計適用後の法人税等負担額は1億73百万円となり、前年同四半期と比べ、36百万円(26.5%)の増加となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は3億24百万円となり、前年同四半期と比べ、44百万円(15.9%)の増加となりました。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて0.6%増加し、58億40百万円となりました。これは、主として現金及び預金が83百万円、受取手形及び売掛金が90百万円増加したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて1.9%増加し、19億21百万円となりました。これは主として子会社の工場拡張のための土地40百万円を取得したことによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて69百万円増加し、77億61百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて4.0%減少し、17億41百万円となりました。これは、主として支払手形及び買掛金が46百万円減少したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて3.3%減少し、3億84百万円となりました。これは、主として、その他の固定負債が29百万円減少したことによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて3.9%減少し、21億26百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2.8%増加し、56億35百万円となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益3億24百万円の計上、剰余金の配当1億5百万円であります。

1株当たり純資産は、前連結会計年度末に比べて29円41銭増加し、1,070円87銭となりました。また、自己資本比率は、前連結会計年度末の71.3%から72.6%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の一般管理費及び製造費用に含まれる研究開発費の総額は1億84百万円でありま

す。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,090,000
計	22,090,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成31年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,523,592	5,523,592	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株であります。
計	5,523,592	5,523,592		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成30年10月1日～ 平成30年12月31日		5,523,592		393,997		283,095

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 260,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,261,200	52,612	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 1,592		同上
発行済株式総数	5,523,592		同上
総株主の議決権		52,612	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式2株が含まれます。

【自己株式等】

平成30年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本プリメックス株式会社	東京都大田区鷺の木1丁目5-12	260,800		260,800	4.72
計		260,800		260,800	4.72

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,574,171	3,657,253
受取手形及び売掛金	1,458,629	1,548,806
有価証券	105,698	108,596
商品及び製品	344,060	318,766
原材料及び貯蔵品	155,177	186,217
未収還付法人税等	-	9,871
その他	169,804	12,647
貸倒引当金	437	1,998
流動資産合計	5,807,104	5,840,159
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	251,056	239,864
機械装置及び運搬具(純額)	7,669	15,642
工具、器具及び備品(純額)	8,574	8,722
土地	931,334	971,334
リース資産(純額)	134,353	111,344
有形固定資産合計	1,332,988	1,346,908
無形固定資産		
リース資産	8,527	4,759
その他	11,103	11,862
無形固定資産合計	19,631	16,621
投資その他の資産		
投資有価証券	439,123	471,499
繰延税金資産	80,441	72,947
その他	13,924	13,966
貸倒引当金	623	310
投資その他の資産合計	532,865	558,103
固定資産合計	1,885,485	1,921,633
資産合計	7,692,589	7,761,793



(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,543,751	1,497,505
未払法人税等	91,435	75,134
賞与引当金	43,112	11,122
その他	136,096	158,020
流動負債合計	1,814,395	1,741,782
固定負債		
役員退職慰労引当金	160,230	157,347
退職給付に係る負債	171,912	191,805
その他	65,105	35,114
固定負債合計	397,248	384,267
負債合計	2,211,644	2,126,049
純資産の部		
株主資本		
資本金	393,997	393,997
資本剰余金	283,095	283,095
利益剰余金	4,920,206	5,140,372
自己株式	158,899	158,900
株主資本合計	5,438,400	5,658,565
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	42,545	22,821
その他の包括利益累計額合計	42,545	22,821
純資産合計	5,480,945	5,635,743
負債純資産合計	7,692,589	7,761,793

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	3,952,596	4,305,186
売上原価	2,785,928	3,101,845
売上総利益	1,166,667	1,203,341
販売費及び一般管理費	817,227	835,326
営業利益	349,439	368,014
営業外収益		
受取利息	5,674	17,366
受取配当金	19,962	21,525
投資有価証券売却益	23,584	-
為替差益	16,084	93,311
その他	5,476	3,761
営業外収益合計	70,782	135,964
営業外費用		
支払利息	2,253	2,221
有価証券評価損	-	4,603
その他	469	9
営業外費用合計	2,722	6,834
経常利益	417,500	497,144
特別利益		
固定資産売却益	-	1,221
特別利益合計	-	1,221
特別損失		
固定資産除却損	38	-
特別損失合計	38	-
税金等調整前四半期純利益	417,461	498,365
法人税、住民税及び事業税	134,527	147,312
法人税等調整額	2,674	26,270
法人税等合計	137,202	173,582
四半期純利益	280,259	324,782
親会社株主に帰属する四半期純利益	280,259	324,782

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	280,259	324,782
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	34,454	65,367
その他の包括利益合計	34,454	65,367
四半期包括利益	314,713	259,415
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	314,713	259,415
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
受取手形	29,677 千円	30,062 千円
支払手形	135,118 千円	106,271 千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
減価償却費	55,500 千円	58,984千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月26日 定時株主総会	普通株式	105,256	20	平成29年3月31日	平成29年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年6月26日 定時株主総会	普通株式	105,255	20	平成30年3月31日	平成30年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

当社グループの報告セグメントが「ミニプリンタの開発・製造・販売事業」のみであるため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

当社グループの報告セグメントが「ミニプリンタの開発・製造・販売事業」のみであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	53円25銭	61円71銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	280,259	324,782
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	280,259	324,782
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,262	5,262

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年 2月13日

日本プリメックス株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松 村 浩 司

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 田 知 輝

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本プリメックス株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成30年10月1日から平成30年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本プリメックス株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。